

自立に向けて「前へ！」

——『ベーシック ジーニアス英和辞典』を使っの指導



中畝 繁

■はじめに

この世はとかく諸事争論だ。意見・信念は激突し、結果相反する形が共存する。生徒（児童）が第二言語として英語をある程度修めようとする場合も、様々な点で指導者間に意見の相違が現れる。辞書を例にとれば、「できるだけ引かせるほうがよい」から「すぐに引かせないで文脈から類推させてから引かせたほうがよい」、また「辞書を捨てれば英語が読める」までの幅がある。

かくいう私は、生徒が引く引かない以前のことを問題にしている。「引けるようになる」である。指導者としての立場としては「引けるようにさせる」だ。そして辞書を使いこなせるようになっておくことは、学習者として“学校後”に自立できる技術の獲得だと信じている。

■ニーズに合わせる

勤務校は商業高校で、進路に関しては、進学が4割、就職が6割ほどだ。それゆえ全員に対して大学受験をとりあえずの英語学習目標・目的にはできない。次の上級学校にあがる生徒と違い、多数派である就職する生徒にとって高校の3年間は最後の必修ステージとなるからだ。そこで、全員に身につけてもらいたいことが2つになる。英語の基礎力と継続を下支えする学習技術である。

語学の肝である継続学習を学校後も成立させるようにという観点から、「辞書を使いこなす」を大事な習得事項と位置づけている。初心者指導では対象全員が同一の辞書を教室で使うというのが一番便利で楽なのだが、環境上そこまで強気には

押せない。そこで、入学前に英和辞典を持っていない新入生に対して「英語科からのお願い」として辞書を整備することを推奨している。

現年度は紙の英和として『ベーシック ジーニアス英和』(BG)、電子辞書としてセイコーインスツル製のSR-H4500か同SR-V4700(音声付き)を英語科として推薦した。この三者の共通点はBGである。新入生の大半は中学で英和辞典を使ったことがないので、BGが身の丈にあった入門英和として手頃だという判断から推薦している。幸い4500と4700には『ジーニアス英和 第3版』、英英としてOALD6も入っているので学習者の進化にも1筐体で長期に対応できる。

■どんなふうに指導するか？

新入生に対してはこんなふうに接している。

時期としては、①1学期最初の時点、②1学期期末試験後、③2学期初め。伝授する技能は各段階に合わせて順にグレードを上げていく。

①主に見出し語を見つける練習と、原形と変化形の区別、品詞、**C** **U**、**㊦** **㊧**、形容詞の限定・叙述用法を示す[名詞の前で][補語として]等基礎的な知識の理解を、演習を取り混ぜながら行う。これらの事項の学習にはBGの巻末の「文法のとびき」を使う。また、英語の語順と日本語との関係を視覚化した次頁に示す「**㊧**と**㊦**の関係」などは能格動詞の姿を透視図のように見せてくれる。

②短めの投げ込み文章の和訳を課す。またイディオム・成句か否かの見極めと、それらの語群の中で、どの語を辞書であたれば探せるか。



④ 他と自の関係

他1	open A	Aを開く
自1	A open	Aが開く
他5	open A	Aが始める
自4	A open	Aが始まる

③教科書の単元の本文の内容を自力で解読する(自宅での予習のシミュレーション)。

見出し語に行き着く演習の場合は、当然だが電子辞書の生徒が圧倒的に速い。だが既述の予習シミュレーションの段階では、紙組と電子組に質的な差は出てこない。たぶん中学段階での英語の基礎語彙・文法の定着差と地金の日本語運用力の差の方が作業の質と量に影響するということなのだろう。ところで、どんなところで初心者はずまずくののだろうか。形の違い、語順による語の役割の違いが分かりにくい生徒が多い。端的にいうと、文法力が足りないということでもある。

例: Wetlands clean water and stop flooding.

教科書の欄外には「flooding 洪水」とある。英和でand以外を確認する生徒が多い。結果は、「wetlands 湿地」「clean きれいな」「water 水」「stop 止める」。これを加算して出来上がる日本語は「湿地のきれいな水と[で]洪水を止める」のようになる。この結果は紙・電子の違いにはもちろん由来しない。共通している誤認は、出会った最初の語義を吟味もせずに、そのまま採用してしまうことだ。この場合なら主語と述語動詞の存在を見切ることが求められるが、現実にはこの関係性がピンとこない生徒が多い。さらに、実はもう1つ大事な点がある。それは日本語力だ。出来上がった日本語がいびつだと感じる生徒は、机の間を回っている私を捕まえて「先生、これ変じゃない?」と聞いてくる。その場合は、“OK, I'll give you a hint. The wetlands CLEAN water. You CLEAN your room, right? A wetland CLEANS water.”のように振り込む。聞き取れなければ、「あのね、もしも A wetland

だったら, cleans になるんだぜ」とスイッチする。すると「じゃ、これ動詞?」と響いてくれるときもある。新たな発見へ誘導できたときは教えていて楽しい瞬間だ。

例: Do all the people speak only Japanese? Do only Japanese live in your country?

ここで生徒にとって困難な点は3つある。まず連続する文の中で2度出現する名詞 Japanese の意味が異なること。ただし, speak と live の意味を確認していくと常識で判別できるので, まあ小さな困難点ではある。やっかいなのは, 実は only のほうだ。英和の形容詞の語義「唯一の, たった1つの, ただ…だけの」から, 意味を紡ぎ出せるかということだ。そして最大の困難は, 辞書に出ていない文脈上の意味が探り当てられるかということだ。指導上便宜的に語・文・段落とボトムアップしていくのだが, その過程で生徒は文脈上の意味を見落としてしまいがちなのだ。そんなときは Who are all the people? と尋ね, 「日本国民は日本語しか話さないのですか。日本には日本人しか住んでいないのですか」のように理解を得ているかどうか確認する。

■おわりに

引くことができるようになったら, ぜひ紙のBGはぱらぱらと眺めたり, 読んでもらいたい。また電子の場合は, 私家版単語帳作りから入り, 和英・英英・国語を英和とリンクさせる技の伝授, 内蔵の多読用 Oxford Bookworms (3レベル10小説) への挑戦へと進ませたい。

願わくば, 喜々として紙も電子もおもちゃにしている私の姿が, 生徒の目に「絶滅危惧日本人“学校後”継続英語学習者の role model」とでも映じていてくれるとうれしいな, と時々がらにもなく弱気に振れる。そんな時は小声でこうつぶやく。「前へ!」

(なかうね しげる・埼玉県立皆野高等学校教諭)